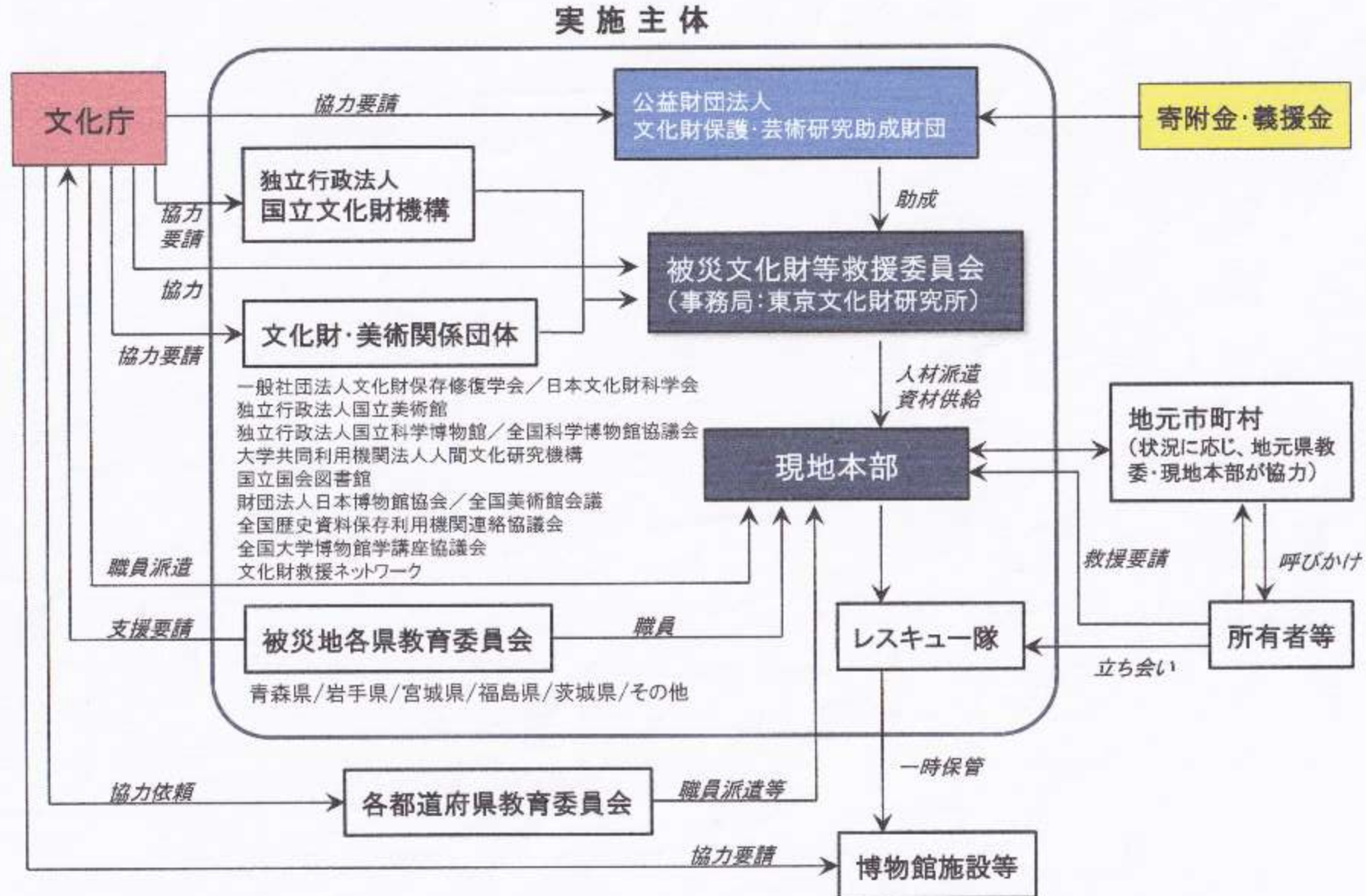
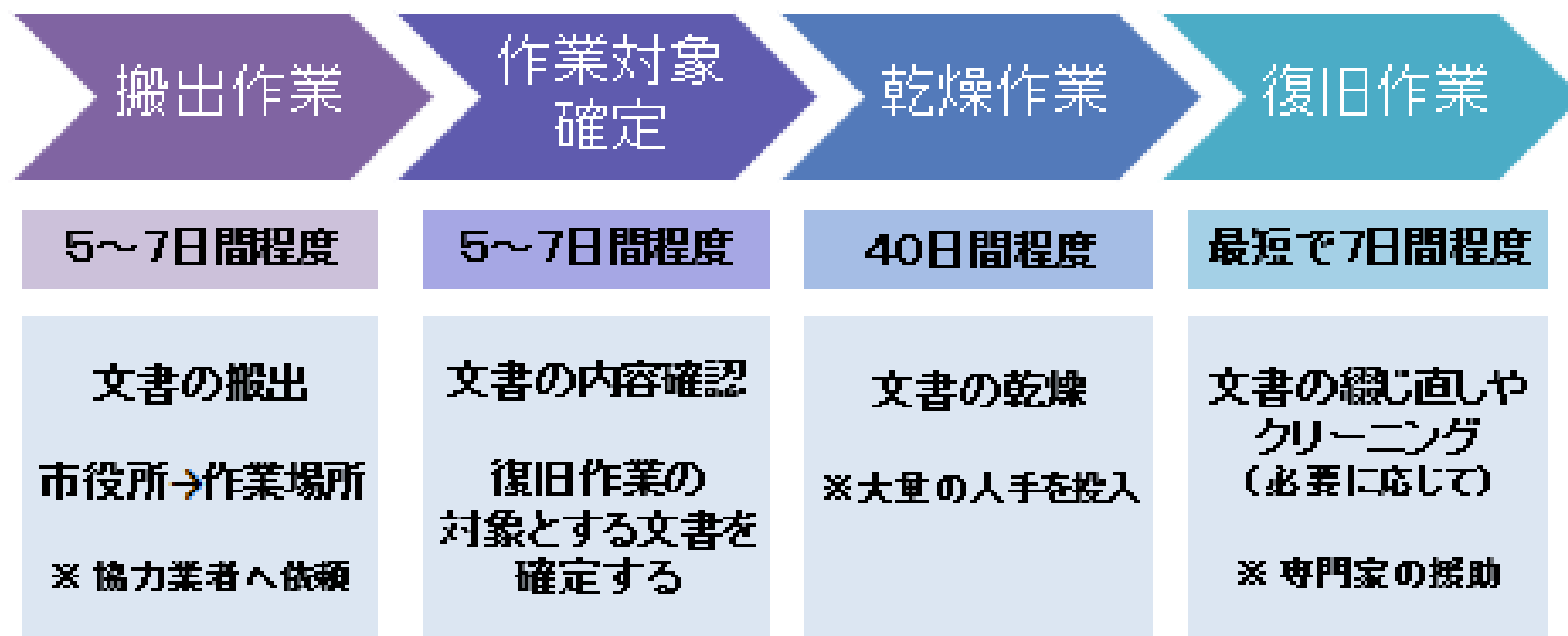




陸前高田市 被災公文書 復旧作業 工程(案)

陸前高田市・県派遣職員・全史料協

(三者で連携をとりながら事業全体を推進)







キッチンタオルと新聞紙で吸湿シートを作る。











シートをはさんで吸湿中の文書群（10月18日）



ここからは東京文書救援隊開発の簡易機器とその作業

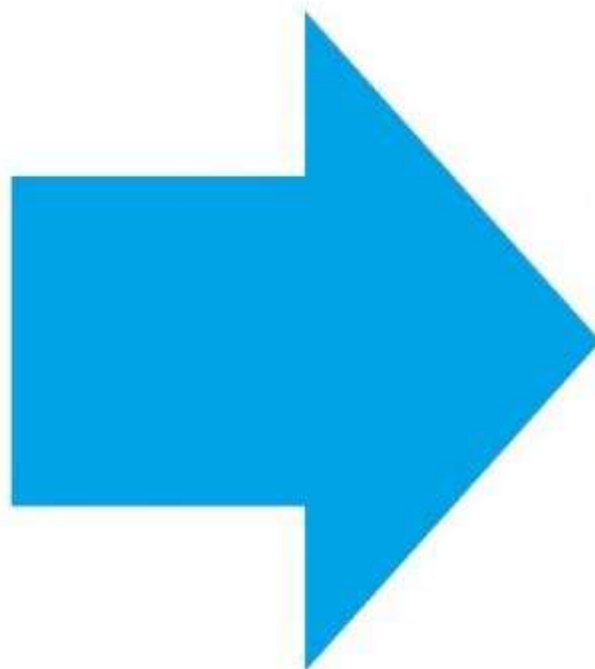


乾燥には扇風機も活躍





洗浄前



洗浄後

洗浄前後の比較

東海新報 2011年 10月8日

守ろう、市民の財産

被災した
公文書 退職者や専門団体が復旧作業

陸前高田



東日本大震災の大津波によって庁舎が被災した陸前高田市役所。庁舎内に保管されていた数多くの公文書も、浸水、流出といった甚大な被害を受けた。公文書は「市民の財産」でもあり、これらをい

でも多く救おうと、旧矢作小学校会内で市役所OBやOG、専門機関の協力を得ての復旧作業が展開されている。

震災前、庁舎内や庁舎裏の書庫には、各種施策の文書、記録、市制施行前の貴重な資料などを保管。その数は10万冊以上ののぼるといわれ、津波による浸水や泥に埋まるなどの被害に遭った。

急を要し、持ち出し津波で被災した公文書の復旧作業を展開中。旧矢作小学校

が可能な書類は、職員らが被災庁舎から回収。陸上自衛隊も作業を行い、書庫に保管した文書のうち約1万5000冊を取り出すことができた。しかし、浸水して汚れた文書はカビの発生が懸念され、乾燥作業が急務とされていた。

とはいえ、市職員の数が足りず、文書復旧作業まで手に負えない状態。文書内容を見た上での分別も必要のため、市役所職員のOB、OGらで構成する市役所職員退職者の会(神田健会長)が協力を申し出た。さらに、全国歴史資料保存利用機関連絡協議会のメンバーが加わり、作業に必要な技術や知識を指導することとなった。

作業は8月29日にスタートし、退職者の会から4~5人、県や市の緊急雇用によるスタッフ5人、協議会メンバーらが参加。現在は傷みとカビの繁殖を最小限に抑えるための吸水、乾燥作業を展開されている。

被災文書は、震災後

半年以上を経ても復旧状態。参加者らは湿度計で湿度を計り、乾燥状態の悪いものにはキッチンペーパーを挟み込んで対処。乾燥は紙湿度10%になるまで続ける。

その後は、文書について砂や汚れを取り除くクリーニングや、書架などにしまふためのためのファイリング作業などが控える。年数が経っているものなど、破損がひどい書類の分別も行っている。

復旧作業は今月中旬から下旬をメドに、被災川県立公文書館(元省吾館長)でも受け入れを開始する予定。作業のため、現地に避難している被災者を緊急雇用する計画もあるという。市議会関係者

書は、法政大学(東京都)のサステイナビリティ研究教育機構プロジェクト・マネージャーである金屋南佳教授を中心に、都内で作業を行っている。

退職者の会事務局の佐藤信夫さんは「役所が困っている中で、作業をやってみてはどうか」と役員間で図り、復旧作業を行えば、来「こんなものが残っていた」という貴重財産になる。全国各の会員が、その助けになればと思っている」と協力の継続を誓っていた。

東日本大震災と日本のアーキビストたち

- ・ 東日本大震災・津浪 現用公文書の被災と救済
- ・ 文書館・図書館・博物館…
- ・ 民間文書の救済
- ・ 無くなったものが何かさえ分からない状況
→ 指定文化財ではないものの「運命」？
- ・ 大地震は近いのか？
→ 東寺と地震 1361年 1585年 1853年
- ・ → 南海トラフと地震の周期

資料の救助優先リストの作成

- 被災時の救助対象となる資料の目録と所在を明確にする。
- 資料の救助評価＝現物の優先保存(重要性)と素材ごと(災害過敏性)の評価はできているのか。
- 最優先保存を要する資料の選別は、対象資料目録(概要)を基に、現物保存の優位性(重要性)を決定し、資料の状態調査・把握を行う。平常時に評価検討の組織をつくり決定しておく。
- 選択評価 すべて代替不能なのか。その場合の保存処置のコストはどれくらいかかるのか。代替物があり、代替可能な場合は廃棄するのか。
- 発生場所として想定される被災場所はどこか。被災規模による救助順番は決めているか。
- 配架リスト(図面)への資料情報の記入→配架リストの別置および分散保管(被災場所で共に消失しない)

京都府立京都学・歴彩館



收藏庫



さまざまな工夫



温湿度管理 他



地下收藏庫提案

3. 設備計画

開場への配慮と新築した数棟を以て一帯の開発策

京都の街道を守りながら練歩していく施設として、様々な方向からの環境技術を取り入れた先進的な施設を目指します。京都の歴史・文化・自然・産業・生活・未来の姿を、この施設を通じて発信することによって、京都の魅力を世界に発信します。

● 本書は、2014年10月現在、最新のデータに基づいて作成された。

[illegible]

资料来源:根据《2010年中国统计年鉴》整理。

[illegible][illegible]

4. 構造分析

内閣府は、このたびは伊勢・志摩で世界遺産のシステム

の安定性を確保し、正誤判定は誤検出・漏検リスク低減をテーマに構造として二重判定による複眼型構造と統合した自律的で信頼性の高い構造計画を効率的に実現します。

DOI: 10.1002/eqe.2406

[illegible]

試験合格者の数にして初めて史上最大の伸び率。試験内容、試験形式、指導性など大幅に変わったベネッセの改革は評価されます。バカ馬鹿と同等の自然言語をサンディックス毎に勉強することで、JLSTとPICTのダブル得点で、2000年現在の試験レベルに簡単に到達する事が可能になることが分かります。

以下、この報告書に示したような結果を踏まえ、本アセスメントの結論
として、実地電力資源コンクリート製構造物に、以下を指示せず、満期までの有
限な経路経路を支持するものに制限をアセスメントする旨とします。アセスメント
の結論を支持する旨の事項を記載するに、このことから、野鳥を絶滅危惧種から
国内産アトリス（アトリス）と見做すことができます。

地質が堅固な地下には、**1.5~2.0倍**の地下水位の差も多くないという調査結果から、地下に突如と一帯のみの高差も多くないと考えられます。しかも、堅固な地盤の可能性があるわけとするならば、地下水位の差はシンクホール形成部とシンクホールとならないところ、外周部と中心部との差もそれほど大きくないことが推察されます。また、シンクホールによる地盤の沈下も、外周部から沈降域が広がると考えられます。

収蔵庫消火設備は、クリ
ティカルユースとしてリサ
イクルハロン消火剤活用

ドライエリア・グレーチングを設け、地下外壁メンテナンススペース確保

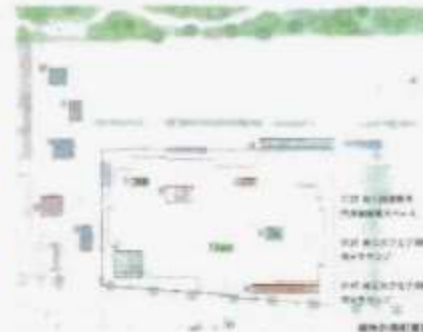
5. 省エネルギー・省コスト・長寿命化の提案

無異時性を以てしたリーマン平方メトリックの範囲

研究計画
 ①調査対象は、本邦各地の自治体から、いずれも一般道に於ける歩行者の安全確保に資する、九段西側
 の横断式信号交差点に設置する「歩行者用歩道横断線」の設置率の調査対象となる自治体とする。
 ②対象は、一定期間以上（本年度調査時点）の歩行者の被害発生、経済的被害が生じ、または
 近年で事故発生率が高いものとして、アンケート調査結果に照らし合わせてランダムに選
 び出し、問とせし調査対象自治体を選定する。アンケートより自治体を選定する。
 ③調査結果より、自治体を選定し、アンケートを郵送し、使用より、使用率の調査結果を寄
 附し、調査結果より、自治体を選定し、アンケートを郵送し、使用より、使用率の調査結果を寄

6. 植物計画 総合植物課と連携した林業計画の立案

施設内外に広部の文化と緑の海、植物を求め、広部学の資料展示の一つとすることを提案します。総合博物館と連携することで学術的・教育的な取り組みを行い、都市を市民のための一環として保全フェールダーパークコンシットとして緑の形成することにより市内にも広れた環境全体が「広部学センター」となります。



地盤の嵩上げ

■地下収蔵庫の防水・防湿対策-2

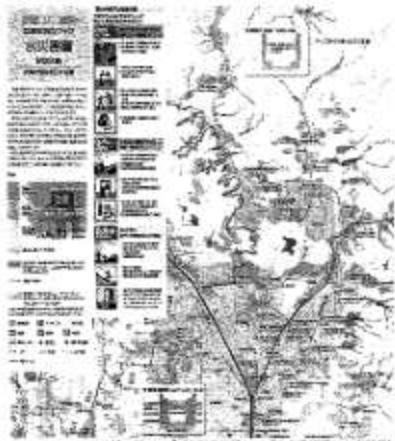
□湧水ピット

- 1. 換気ピット及び地下2階下層の湧水ピット内部の土に面する部分にはコンクリート改質剤を塗布し、躯体の水密性を高める。
- 2. 換気ピット下部には湧水ピットに通じる通気管を設置し、湧水ピット内は人进出口を利用した換気を行う。機械室内に排気ファンを設置して換気を行う。
- 3. 湧水ピットには点検扉を設置し、躯体がリウムを露出させて漏水発生が速に発見できるようにする。
- 4. コンクリート改質剤の塗布を確保する。

ハザードマップ・現状地盤から50cm嵩上げ・集中豪雨雨水侵入対策・市の開発許可非該当のため、盛土は30cm・残り20cmは入り口付近のスロープ化かにより計50cm

□地上部における浸水対策

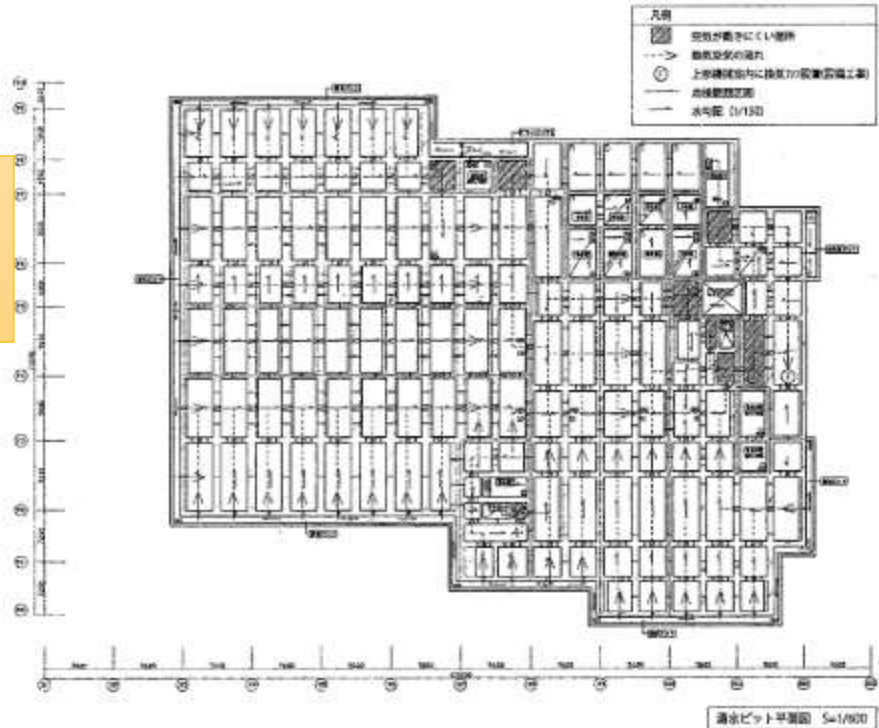
- 1. 地盤の嵩上げ
 - ・ハザードマップに基づき、現状地盤から50cmの高さに1階床レベルを設定し、集中豪雨時の外部からの雨水浸入対策とする。開発許可非該当扱いとするため、京都市開発許可等審査基準により現状地盤からの盛土は最大30cmとし、残り20cmは入り口付近のスロープ化により合計50cmを確保する。
- 2. 出入口付近の浸水対策
 - ・出入口における緊急時の浸水対策としては仮設の止水パネル等の設置が考えられる。(別途備品対応)



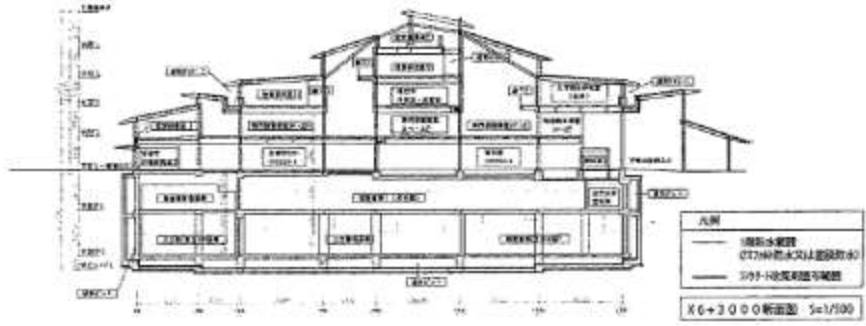
ハザードマップ（京都市防災マップ 水災危険 近所区画）



無断室の自動ドア材料に取り付けた止水パネルによる湧水対策の例



湧水ピット平面図 S=1/800



K6+3000断面図 S=1/100

グレーチング点検



東寺百合文書のデジタル化作業



東寺百合文書WEBの意義

「クリエイティブ・コモンズ 表示 2.1 日本 ライセンス」 (CCBY) による提供

原則として資料画像を含めてWEB上のコンテンツすべて



- ❖ 東寺百合文書全ての資料画像を公開
- ❖ 高画質の画像を自由にダウンロード可能
- ❖ 全点の目録検索のほか、和暦、西暦及びキーワードなどによる検索も可能
- ❖ 可能なかぎり、**世界のだれでも、いつでも、資料にアクセス**
- ❖ 「百合百話」欄の開設 → わかりやすく興味深い解説を
- ❖ **一つの保全策 (= 「保険」) か？**

ブルーシールド



第11回
文化遺産国際協力コンソーシアム研究会

ブルーシールドと文化財緊急活動

-国内委員会の役割と必要性-

2012/9/7(金) 13:00 ~ 17:00

東京国立博物館 平成館 大講堂

主催：文化遺産国際協力コンソーシアム
後援：イコム日本委員会・国際図書館連携資料保存コア活動
(IFLA/PAC) アジア地域センター・全国歴史資料保存
利用機関連絡協議会・独立行政法人 国立文化財機構
東京文化財研究所・日本イコモス国内委員会・社団法人
日本図書館協会・財団法人 日本博物館協会

A collage of images related to cultural heritage, including a damaged building, a Blue Shield logo, a person working on a manuscript, a group of people, and various artifacts.

文化遺産防災国際シンポジウム 2015年12月13日開催（京都）



東寺の防災史

東寺と所蔵資料の危機

- ・ 東寺は、796年に創建されたが、その長い歴史の中で、たびたび危機に直面した。
- ・ 「危機」の種類は様々だった。
- ・ 主なものは、地震 落雷 火災、盗難、土一揆、戦乱、落雷、地震…など
- ・ 最も大きな危機は、戦乱と地震であった。
- ・ 危機に遭遇すると、寺僧たちは宝物や文書を懸命に運び出した。
戦乱の中では、遠隔の別の寺院に運び出すこともあったが、効果がない場合もあった。
その寺院が戦闘の場になってしまうこともあったからだ。
- ・ 空襲をともなう現代の戦争と大地震は最大の危機をもたらした。

太平洋戦時下の京都府の文化財行政

前史

- ・ 1920～30年代、1941年まで、京都府は専門家を雇って、国宝の建造物の保存・修理を督励したり、独自に宝物調査を進めていた。

戦時下の京都の文化財

- ・ 1943. 12. 14. 国宝・重要美術品ノ防空施設整備要綱（閣議決定）
→ **国体擁護・大東亜共栄圏文化創造が主眼**

防空施設の実施 分散疎開 空襲による被害を最小限度に防止

- ・ 1944～45年 二条城、醍醐寺三宝院宝物館、鞍馬寺、仁和寺などの収蔵設備に防護施設をつくり、監守常置し、

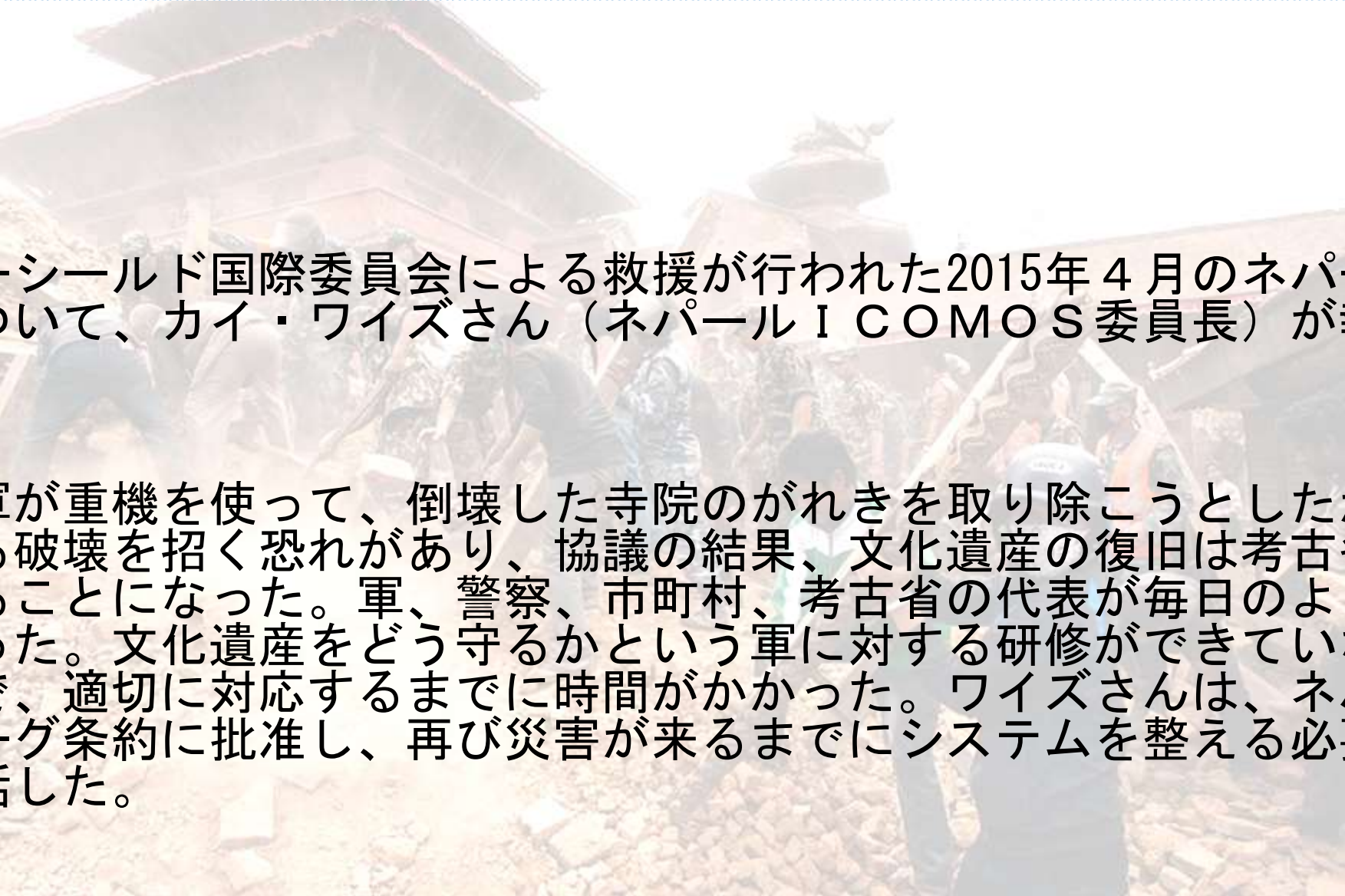
開準備をしたり、国宝の収蔵を実施。長岡天満宮宝物庫賃借も検討。

防災方法 疎開や貯水槽設置のほか、天井板取り外し、渡り廊下撤去、附属建物除去、警備員増強などを指示。

ネパール大地震 地震直後の現地状況 (写真提供：日本赤十字社)



世界の文化遺産防災体制の強化のために

- 
- ブルーシールド国際委員会による救援が行われた2015年4月のネパール地震について、カイ・ワイズさん（ネパール ICOMOS 委員長）が報告した。
 - 陸軍が重機を使って、倒壊した寺院のがれきを取り除こうとしたが、さらなる破壊を招く恐れがあり、協議の結果、文化遺産の復旧は考古省が監督することになった。軍、警察、市町村、考古省の代表が毎日のように話し合った。文化遺産をどう守るかという軍に対する研修ができていなかった。適切な対応するまでに時間がかかった。ワイズさんは、ネパールがハーグ条約に批准し、再び災害が来るまでにシステムを整える必要があると話した。

社会変動からくる危機：歴史資料や学校図書館の「危機」

- ・ 資料保存の主体＝家・集団・共同体（地域社会）の衰退
「郷土資料」の「危機」
- ・ 学校統廃合と学校資料・学校図書館の「危機」
- ・ 「現地保存主義」原則の問い直し

多様な担い手たちの分業と協業 私見

※ 「出かけ、働きかける図書館へ」 → 防災情報・防災教育と図書館

1. 博物館・図書館・文書館 → M L A連携の叫ばれる中で
2. 来館者は何を求めているか？が第一
3. 来館しない人たちを視野に入れているか？

※ ICOM舞鶴ミーティング2018（2018.9.30.開催）に参加して

1 メライナ・カマイラ ケバ フィジー

グローバル問題の発信拠点としてのミュージアム：太平洋及び世界の気候変動への意識を高め、取組を促進させるフィジー博物館の活動

2 エリカ・ディワタ・M・ジャシント フィリピン 災害を語る：フィリピンでの美術展を通して伝える

3 サトゥ・イトコネン フィンランド 幸福感を高める美術館

4 島 絵里子 日本 多様な文化的背景をもつ人々が安心して語らうことのできる場としてのミュージアムの可能性ーマレーシア国立博物館における多国籍ボランティアの活動の事例からー

5 ジュディス・マカレスター アイルランド リパトリエーション（返還）と癒しの博物館

6 モリエン・リース ノルウェー 急速に変化する世界で持続可能性を促進させる役割を担う文化拠点としての博物館

而 百 元 身 が 受 け た
組 組 山 組

ご清聴ありがとうございました。